

活気あふれる故郷を夢見て

東京室蘭会会長 沢 邦彦



室蘭市は、今年市制90周年、開港140周年を迎え、7月末に盛大な記念行事が催された。しかし、室蘭市もまた市勢は年を追うごとに勢いを失い、人口は最盛期の半分に減り、少子高齢化もますます加速している。往時の繁華街は、多くの店がシャッターを下ろし、通りを行く人もまばら、子供らの遊び声も聞こえないありさまで、活力が感じられない。こんな状態を何とか変えて欲しいとの市民の思いが33歳の若い市長を生んだのだと思う。新市長は市民との対話の中から解を見出そうと懸命に努めている。

私達「東京室蘭会」としても遠くに在りな

がらも極力応援し、我がふるさとの活力再生に役立ちたいと思っている。私は、東京室蘭会の皆さんにそのために私達が努めるべきこととして

- 一、室蘭活性化に役立つと思われることを積極的に提言する
- 二、室蘭に積極的に「ふるさと納税」をする
- 三、努めて室蘭を訪れる

の三つを求めている。

「ふるさと会」は、ただふるさとを懐かしむだけの集まりではなく、ふるさとに役立つ存在でありたいと思っている。

冬の樽の幻想的な輝き

東京小樽会会長 清水川 治二



我がふるさと小樽は今年で市制90周年を迎えた。大正11年（1922）当時の小樽は、鉄道や港とともに、北海道屈指の商都としての隆盛を極めた。

はふるさとの行く末を案ずるものであった。今では、私達が暮らしていた当時とかわらぬ歴史的な街並みが訪れた多くの人々を魅了し、北海道を代表する観光都市として生まれ変わった。

この会報第30号が発行される頃には、北海道は凍てつく寒さと雪で覆われた季節を迎えます。ここでは、冬の樽の風物詩として定着した「小樽雪あかりの路」をご紹介します。

しかし、その後は経済情勢や流通手段の変化などにより「斜陽の街小樽」といわれる時代が長く続き、小樽を離れた私たちにとって



次回で第15回目を迎える「小樽雪あかりの路」は、平成25年2月8日から17日までの10日間、小樽運河や田国鉄手宮線（手宮線跡地）などをメイン会場に開催されます。運河に浮かんだガラスの浮き球キャンドル

新・ご当地グルメグランプリ3連覇!

「別海ジャンボホタテバーガー」

東京・別海ふるさと会会長 新家 鶴男



去る7月7、8日の両日、食で地域興しを目指す「新・ご当地グルメグランプリ北海道」が別海町農村広場で開催された。地元で3連覇を目指す別海ジャンボホタテバーガーに、道内11地域の料理が挑んだ。日地域は、美瑛カレーうどん、富良野オムカレ、オホーツク北見塩焼きそば、羽幌えびタコ焼き餃子、南富良野エゾシカカレー、根室さんまロール



結果、食べた人が審査する「味、人気、価値感」すべてで1位となった。3項目完全制覇は大会初、めでたく殿堂入りとなった。なお、同バーガーの次なる目標は「とっとりバーガーフェスタ・全国ご当地バーガーNo.1決定戦（バーガー全国大会）2連覇」とのことである。「優勝を目指して頑張れ！」と声援を送りたい。

は、水面を満天の星空のように輝かせ、スノーキャンドルが灯された雪路は、あたたかな灯りで照らされた幻想的な世界へと誘います。

このイベントには多くの市民が参加し、期間中、約15万本のキャンドルが街のいたるところで一斉に灯されると、小樽のまちは、キャンドルのほのかな輝きの輪に包まれた心暖まる時間が過ぎていきます。

「小樽雪あかりの路」を未体験の皆さん、是非一度、冬の樽の幻想的な輝きの世界をご覧ください。

次回の雪あかりの路には、東京小樽会もみんなで訪問し、冬の樽、北海道の魅力を存分に楽しみ、東京の皆さんに伝えていきたいと考えております。

第15回 小樽雪あかりの路
日時：平成25年2月8日（金）～17日（日）
午後5時～9時
場所：小樽運河、手宮線跡地、朝里川温泉ほか

田町を中心に都内 78 店舗。
室蘭出身の駒八おやじが産地直送の新鮮素材を確かな技術と満足のゆくサービスでおもてなし!!

北の蔵 駒八 本店

TEL:03-3453-2530
http://www.komahachi.com/

KOMAHACHI